

分析結果報告書〔 1 〕 3 / 4

< 原子吸光法 >

< 原子吸光法：カドミウム >

試験溶液の希釈	希釈倍率 () 注3)
電気加熱法 注入量 () μL	1. 自動注入装置 2. 手打ち
注入の方法	1. 黒鉛炉 2. 耐熱金属炉 3. その他 ()
原子化の方法	1. 添加しない 2. Pdを添加 3. Pd以外の添加 ()
灯ファイバーの添加	1. 行わない 2. 重水素ランプ 3. 偏光ビーム 4. SR補正 (自己反転法)
原子吸光分析装置 バックラウンド補正	5. その他 ()
測定波長 () nm	

< 原子吸光法：銅 >

試験溶液の希釈	希釈倍率 () 注3)
電気加熱法 注入量 () μL	1. 自動注入装置 2. 手打ち
注入の方法	1. 黒鉛炉 2. 耐熱金属炉 3. その他 ()
原子化の方法	1. 添加しない 2. Pdを添加 3. Pd以外の添加 ()
灯ファイバーの添加	1. 行わない 2. 重水素ランプ 3. 偏光ビーム 4. SR補正 (自己反転法)
原子吸光分析装置 バックラウンド補正	5. その他 ()
測定波長 () nm	

注3) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

< ICP発光分光分析法 >

< ICP発光分光分析法：カドミウム >

試験溶液の希釈	希釈倍率 () 注3)
ICP発光分光分析装置 装置の型式	1. 波長走査(シーケンシャル) 2. 波長固定(マルチ) 3. CCD検出器
	4. CID検出器 5. その他 ()
バックラウンド補正	1. 行う 2. 行わない
超音波ワライバーの使用	1. 使用しない 2. 使用する
測定時間 () 秒	
測定波長 () nm	

< ICP発光分光分析法：銅 >

試験溶液の希釈	希釈倍率 () 注3)
ICP発光分光分析装置 装置の型式	1. 波長走査(シーケンシャル) 2. 波長固定(マルチ) 3. CCD検出器
	4. CID検出器 5. その他 ()
バックラウンド補正	1. 行う 2. 行わない
超音波ワライバーの使用	1. 使用しない 2. 使用する
測定時間 () 秒	
測定波長 () nm	

注3) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

< ICP質量分析法 >

< ICP質量分析法：カドミウム >

試験溶液の希釈	希釈倍率 () 注3)
スペクトル干渉の低減又は補正等	1. 四重極 2. 二重収束 3. その他 ()
質量分析計	1. 行わない 2. 行う
コリジョン・リアクションセル	1. 行わない 2. 行う
水素化物発生	1. 行わない 2. 行う (その方法の概要:)
補正式による補正	1. 行わない 2. 行う (補正前の指示値 () 補正後の指示値 () 注4)
その他	1. 行わない 2. 行う ()
積分時間 (質量数毎) () 秒	
質量数 ()	

< ICP質量分析法：銅 >

試験溶液の希釈	希釈倍率 () 注3)
スペクトル干渉の低減又は補正等	1. 四重極 2. 二重収束 3. その他 ()
質量分析計	1. 行わない 2. 行う
コリジョン・リアクションセル	1. 行わない 2. 行う
水素化物発生	1. 行わない 2. 行う (その方法の概要:)
補正式による補正	1. 行わない 2. 行う (補正前の指示値 () 補正後の指示値 () 注4)
その他	1. 行わない 2. 行う ()
積分時間 (質量数毎) () 秒	
質量数 ()	

注3) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

注4) 指示値としては「イオンカウント値」等を記入する。

< ジエチルジチオカルバミド酸吸光光度法：銅 >

前処理後の溶液の分取量 () mL	
測定波長 () nm	

分析結果報告書〔 1 〕 4 / 4

< 検量線の作成等 >
 < 検量線の作成等：カドミウム >

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 1. イットリウム(Y) 2. インジウム(In) 3. イテリウム(Yb) 4. 列ウム(Tl) 5. ビスマス(Bi) 6. ベリリウム(Be) 7. ロジウム(Rh) 8. レニウム(Re) 9. テルル(Te) 10. ガリウム(Ga) 11. ゲルマニウム(Ge) 12. スカンジウム(Sc) 13. コバルト(Co) 14. その他()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小() mg/L ~ 最大() mg/L 注5) ()
試料の指示値	1回目() 注6) 2回目() 3回目()
空試験の指示値	() 注7)
検出下限値	() mg/kg 注8)

注5) 分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) を示す。
 注6) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。
 注7) 標準添加法では記入しない。
 注8) 土壌試料中の濃度 (mg/kg) を示す。

< 検量線の作成等：銅 >

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 1. イットリウム(Y) 2. インジウム(In) 3. イテリウム(Yb) 4. 列ウム(Tl) 5. ビスマス(Bi) 6. ベリリウム(Be) 7. ロジウム(Rh) 8. レニウム(Re) 9. テルル(Te) 10. ガリウム(Ga) 11. ゲルマニウム(Ge) 12. スカンジウム(Sc) 13. コバルト(Co) 14. その他()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小() mg/L ~ 最大() mg/L 注5) ()
試料の指示値	1回目() 注6) 2回目() 3回目()
空試験の指示値	() 注7)
検出下限値	() mg/kg 注8)

注5) 分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) を示す。
 注6) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。
 注7) 標準添加法では記入しない。
 注8) 土壌試料中の濃度 (mg/kg) を示す。

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--